

I 第3回海洋測器座談会

主催 水産海洋研究会

主 題 MOORING について

日 時 昭和43年2月19日(月)午後2時~5時30分

場 所 東海区水産研究所第2会議室

コンピーナー 西村 実 (水産庁漁船研究室)

話題および話題提供者

1. IGOSS (全地球海洋Station) について 淵 秀隆 (気象庁海洋部)
(現東海大学海洋学部)
2. 海洋測器のMooring について 岩佐欽司 (海上保安庁水路部)
3. 海洋向け特殊電池の現状とその将来 服部正策 (湯浅電池株式会社)
4. ブイ類の汚染ならびに被害 西村 実 (水産庁漁船研究室)
(現東海大学海洋学部)
5. 米国におけるMooring の現状 特に材料について 岩宮 浩 (鶴見精機工作所)

1 IGOSS (全地球海洋ステーション組織) について

淵 秀隆 (気象庁海洋部)

1) ま え が き

1961年12月国連総会では宇宙開発の一環として大気大循環の研究を促進させることをWMOに勧告した。これに対しWMOは世界気象監視計画WWWを国連に提案した。

他方、海洋関係では海洋資源に関し、調査研究から法的問題まで各国とも重大な関心を持っているが、ここでは省略し、上記WWWに呼応してさきごろ(1967年10月19~28日)パリーのユネスコ本部で開かれた第5回政府間海洋学委員会IOC(Intergovernmental Oceanographic Commission)において全地球海洋ステーション組織IGOSS(Integrated Global Ocean Station System)に関する決議を行なったので次に紹介してみよう。

2) 第5回政府間海洋学委員会

まず今回のIOCについては、過去4回に比べてきわめて盛大で活気があつた。参加国46カ国参加者128名、オブザーバー11名で、その他国連をはじめ国連傘下のWMO・FAOなどの各機